

酪農試験場だより

No. 66

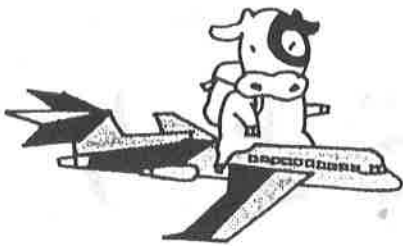


平成6年度導入のスーパーカウ

今月の内容

- 1 スーパーカウ4頭到着
- 2 ふん尿多量施用による粗飼料の品質劣化と対策
- 3 冬季における子牛の管理について

スーパーカウ4頭到着



前年度からスタートしたスーパーカウ整備事業により、今年度もアメリカ、カナダから4頭のスーパーカウが12月22日、当場に到着しました。これで当初の計画どおり計8頭のスーパーカウが輸入されました。

牛肉の輸入自由化による乳用雄子牛、乳廃牛の販売価格低下など、酪農経営を取りまく情勢は厳しいものとなっています。スーパーカウ整備事業は、このような状況をふまえ、高品質牛乳が生産できる能力の高い

乳牛を輸入し、これらを供卵牛として、高能力牛の受精卵を県内に供給することにより、改良のスピードを速め、酪農経営の安定化に役立てるために行われています。

今回輸入されたスーパーカウの内訳は、アメリカ産、カナダ産それぞれ2頭ずつで、そのうち1頭はLPIが+2,050（カナダ5位）であり、他の3頭もアメリカ、カナダでトップクラスの牛です。ET技術を応用し、前年度輸入された4頭も含め、これらのスーパーカウから品質の良い受精卵をできるだけ多く採取し、県内酪農家に販売する予定です。なお生産された雌子牛は、将来、供卵牛として地域で活用して頂きたいと考えております。また、今回輸入された4頭の名号、能力等は下表のとおりです。

スーパーカウ名簿（今年度輸入分）

No.	名 号 (父親・生年月日)	初産乳量 (Kg)	脂肪 (%)	蛋白 (%)	ランク 点	評価	産地
1	コナントエ-カス エルエム ス-キ- ET (リ-ドマン, 3.8.2)	9,535 (336日)	4.3	3.5	87	+1,481 (CTPI)	アメリカ
2	ブラデー-ルム-ソリバー- (エアロスター-, 3.8.21)	10,875 (331日)	4.1	3.6	83	+2,050 (LPI)	カナダ
3	メ-プルウッド` ブラックスタ- ライラック (ブラックスタ-, 2.11.6)	14,175 (365日)	3.9	3.3	86	+1,858 (LPI)	カナダ
4	ジム サウスウインド` ハ`ティ ET (サウスウインド`, 2.7.8)	14,379 (365日)	4.5	3.8	86	+1,438 (CTPI)	アメリカ

ふん尿多量施用による粗飼料の品質劣化と対策



近年、いろいろな意味でふん尿問題が言われますが、特に飼料作におけるふん尿の多量施用問題は、今後、飼養頭数が増加するにともない深刻な問題となってくることが予想されます。

本県の酪農家におけるふん尿の形態は、下表のとおりバークリーナ、自然流下式、一輪車等の3タイプに大別できますが、特に全酪農家戸数の1/3を占める自然流下式は、ふん、尿とも自家圃場還元せざるを得ないため、還元圃場が十分でない場合、過剰のふん尿が施用される危険性があります。

栃木県の牛舎構造別酪農家戸数（戸） H6.5 調査

バークリーナ	自然流下式	フリストール	一輪車等	合計
419 (27)	525 (34)	47 (3)	536 (35)	1,527 (100)

酪試日より No.64でも述べたように、ふん尿を多量に施用した飼料作物は、水分含量が高くなり、予乾効率が悪くなります。また、材料草中の糖含量が低下するためにサイレージの発酵品質が劣化しやすく、多量の硝酸塩も蓄積しやすいこと等が、本場の試験においても確認されています。

基本的にはふん尿の適量施用を守るのが大前提ですが、応急的な対策として次のようなことが挙げられます。

①サイレージの発酵品質改善策

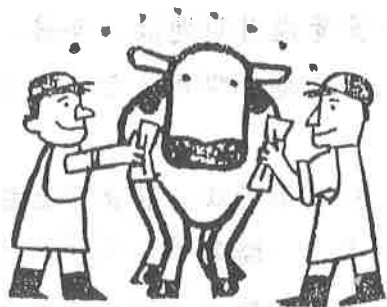
調製時の糖分（ビートパルプ等）添加や市販サイレージ用添加剤の利用。

②硝酸塩の低減化対策

極力若刈りを避け、高刈する。

以上、ふん尿の多量施用による弊害と対策について簡単に述べましたが、硝酸塩の低減化対策については万能ではありません。過度のふん尿を施用し、硝酸塩の蓄積が心配される場合は、最寄りの普及センターや酪農試験場で診断を受け、適切なアドバイスを受けて下さい。

冬季における子牛の管理について



酪農経営の中で、子牛の育成は収入に直接結びつかないため飼育管理がおろそかになる傾向にあります。

しかし、成牛に仕上がった時高い能力を期待するためには子牛を哺育・育成の時期から適切に飼育することが極めて重要です。

そこで今回は、冬季における子牛の管理の中で、特に注意してもらいたい疾病対策について述べます。

冬は外気温が下がり、木枯らしも吹き、空気も乾燥し、人にとっても動物にとっても生活しにくい季節です。このような時期に、子牛は牛舎の換気が悪いと風邪などの呼吸器病になることが多いので十分な注意が必要です。その理由は、ほこりがモウモウと立ちこめるような舎内で飼育されている子牛は、呼吸の都度、空気中のほこりや牛床から発生したアンモニアガスを吸い込み気管支の粘膜を刺激します。さらに、そのために、痛めた粘膜から細菌よりも小さなマイコプラズマやウイルスの病原体が侵入し、気管支炎あるいは肺炎をひき起こすことがあるからです。そして、牛舎の消毒が不十分だと壁や床に残った細菌性の病原体も加わりより重い肺炎などに進行します。

これらの呼吸器系の病気を未然に防止するためには、①常に換気を心掛けることが大切です。ただし、子牛の体に直接当たるような隙間風は良くありませんので十分注意して下さい。②牛床には適量の敷料をしき、常に乾燥させて下さい。③病気の牛は隔離し、他の健康な牛に接触させないようにして下さい。④常に個体観察を励行し病気の早期発見、早期治療に努めて下さい。

そのほかに、ワクチンを用いる予防対策もありますが、生後1ヵ月齢以内の子牛は親からの移行抗体（免疫）を保有していることが多いため、予防接種を行っても十分な予防効果が期待できない場合もあります。使用に当たっては最寄りの家畜保健衛生所あるいは獣医師に相談することをお勧めします。

酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No. 66

〒329-27西那須野町千本松298

平成7年1月17日

電話0287-36-0280